

# 愛知県経済の現状と見通し<2013年4月>

「愛知県経済の現状と見通し」は、今月号よりリニューアルのうえ、毎月リリースしてまいります。  
なお、今月号の「基調判断の前月との比較」については、前回分である2月号との比較を行っております。

## 1. 総括判断

景気の現状	景気は緩やかに持ち直し	基調判断の前月との比較(注1)	↑	水準評価(注2)	☁
当面の見通し	持ち直しの動きが持続する見通し		→		☀   ☁

## 2. 個別項目の動向

個人消費	基調判断	持ち直しの動き			
	基調判断の前月との比較	↑	水準評価	☁	
	<p><b>《現状》</b></p> <p>○『管内大型小売店販売』より、個人消費の動向を販売者側からみると(図表1)、2月の名古屋市内百貨店販売額は、前年比+1.5%と、2012年11月(同+1.6%)以来3か月振りの増加。</p> <p>○品目別にみると、飲食料品(前年比▲3.4%)が3か月連続のマイナスとなったものの、主力の衣料品(同+2.0%)は、婦人・子供服・洋品(同+2.8%)を中心に堅調な動き。このほか、株価上昇などに伴う消費マインドの向上を追い風に、貴金属や宝石、腕時計などを含む「その他の商品(同+7.4%)」も好調さを維持。</p> <p>○一方、3月の新車乗用車販売(含む軽)をみると(図表2)、44,330台・前年比▲12.2%と、2か月振りの2桁減。ただし、エコカー補助金による需要押し上げ効果で販売がきわめて好調だった昨年(2012年3月:50,476台・同+68.7%)の反動が大きいことから、その要因を割り引いてみると、基調としては底堅いと判断。</p> <p>○車種別にみると、軽乗用車(前年比▲3.7%)は、スズキ「スペーシア」などの新車効果もあり、普通車(同▲16.1%)などと比べてマイナス幅は僅か。</p> <p><b>《見通し》</b></p> <p>○栄地区では、松坂屋名古屋店が約14億円を投じ、6月のグランドオープンに向けて食品フロアを13年振りに全面改装中(なお、一部ショップは3月より先行開業)。このほか、名古屋三越栄店や丸栄のファッションフロアも相次いで改装されており、今後は同地区の集客力向上に期待。</p> <p>○さらに、消費税率引き上げ前のマイカー購入需要が高まるなか、夏頃にはトヨタの量販車種であるカローラにHVモデルが設定されると予想されており、乗用車販売は先行き堅調に推移する見通し。</p>				

**図表1 名古屋市・百貨店販売額<前年比>**

(資料)中部経済産業局「管内大型小売店販売」 (年/月)

**◆2月 名古屋市・百貨店販売額**  
272億円 前年比+1.5%(3か月振りの増加)  
・うち衣料品 前年比+2.0%(3か月振りの増加)

**図表2 新車乗用車販売台数<前年比>**

(資料)日本自動車販売協会連合会「自動車登録統計情報」、全国軽自動車協会連合会「軽四輪車別新車販売台数」 (年/月)

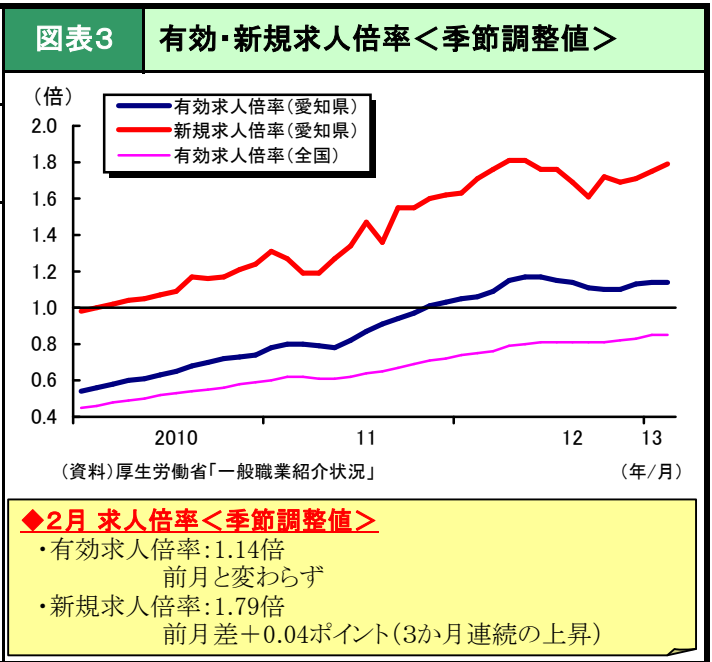
**◆3月 新車乗用車販売台数<含む軽>**  
44,330台 前年比▲12.2%(7か月連続の減少)

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↑:上方修正、→:据え置き、↓:下方修正を示す。例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる。したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

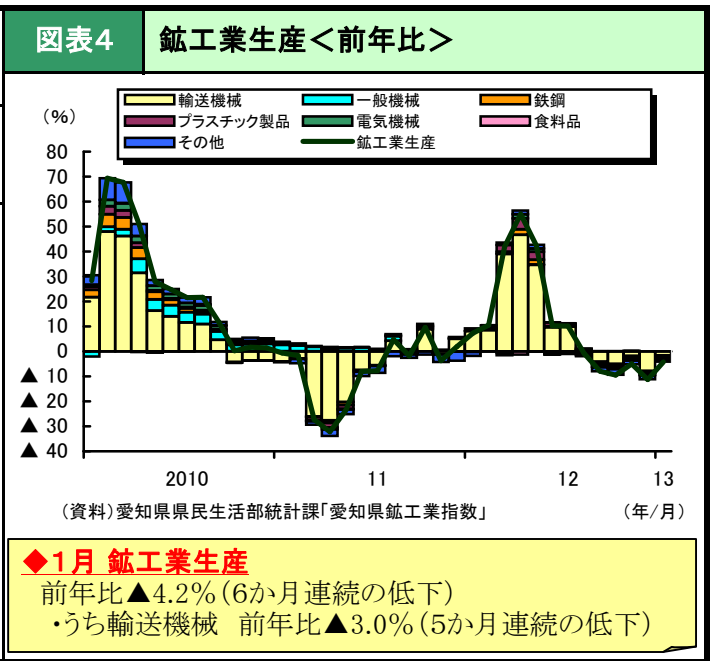
(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、☀:晴、☀☁:晴～曇、☁:曇、☁↑:曇～雨、↑:雨、を示す。

お問い合わせ先	三重銀総研 調査部 渡辺
	電話:059-354-7102
	Mail: mir@miebank.co.jp

雇用情勢	基調判断	緩やかに持ち直し		
	基調判断の前月との比較	→	水準評価	☀️   ☁️
<p>《現状》</p> <p>○2月の求人倍率をみると(図表3)、有効求人倍率(季節調整値)は1.14倍と、やや頭打ち。一方、新規求人倍率(同)は1.79倍と、上昇基調で推移。</p> <p>○なお、愛知県の有効求人倍率は全国5位となっているものの、震災被災地の宮城県(1.29倍、1位)や福島県(1.22倍、2位)を除けば、東京都(1.19倍、3位)などと並んで実質的にトップレベル。</p> <p>《見通し》</p> <p>○国内での自動車生産の好調を受けて、トヨタが期間従業員の採用を再開する動きが出始めたとの報道もみられることを踏まえると、愛知県の求人倍率は上昇基調が一段と明確化する見通し。</p>				



企業活動	基調判断	持ち直し		
	基調判断の前月との比較	↗️	水準評価	☁️
<p>《現状》</p> <p>○1月の鉱工業生産指数をみると(図表4)、前年比▲4.2%と、引き続きマイナス。もともと、輸送機械(同▲3.0%)が全国(同▲8.8%)より小幅な低下にとどまるなど、実質的にはまずまずの水準。</p> <p>《見通し》</p> <p>○各種報道によると、トヨタの国内生産は秋頃まで1日あたり13,000台の水準を維持すると見込まれ、このままのペースで推移すれば、310万台とした2013年通期生産計画の上方修正も視野に。</p> <p>○したがって、数字上、生産指数は輸送機械を中心に、前年の反動でマイナスとなる月が増えるものの、実勢としては好調さを維持する見通し。</p>				



輸出	基調判断	緩やかに持ち直し		
	基調判断の前月との比較	↗️	水準評価	☁️
<p>《現状》</p> <p>○2月の名古屋港通関輸出額をみると(図表5)、前年比+7.0%と、1月(同+21.6%)からプラス幅は縮小したものの、2か月連続の増加。</p> <p>○仕向地別にみると、米国向け(同+25.5%)が2か月連続の2桁増。さらに、品目別にみると、自動車や自動車部品の輸出数量が前年割れの方、金額が増加に転じており、円安効果が徐々に発現。</p> <p>《見通し》</p> <p>○中国での日本車メーカーの販売伸び悩みなどを背景に、同国向け輸出が低迷する一方、域内経済が堅調なASEANや米国向けを中心に、輸出は緩やかな増加傾向で推移する見通し。</p>				

